

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所内の掲示に加え、理念・ビジョンが記載された「友愛会ハンドブック」が全職員に配布されており、常に思いを共有しながら業務にあたっている			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	自治会に加入し地域の状況把握に努めたが、コロナ禍で今年度も交流の機会の確保が困難であった。散歩時住民の方とお会いすれば挨拶等は行っている	コロナ5類移行後、地域活動の再開状況について (地域の意見) ・5類移行後も、地域活動の再開も難しい状況はある ・地域行事自体も減少している		地域の方も今年度もコロナの状況を踏まえて、以前のような地域活動に戻っているわけではない。行事自体が少なくなっている
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	今年もコロナ感染拡大予防のため運営推進会議は書面で実施し、取り組み状況の報告をし、意見や助言を運営に反映させている	災害対策について (地域の意見) ・今年度の自治会の防災訓練は、自治会長、防火クラブで非常時の初動確認のみ(地域住民の参加はなし)で実施した。来年度はどのように実施できるかはまだわからないが、施設職員さんも参加できるとよいと思う ・水害の際は、法人内の別施設へ避難することだが、有事の際はそのようなことも含めて連絡しあいながら対応していけると良いと思う		運営推進会議で災害対策の事を取り扱ったが、自治会でも今年度は必要最低限の訓練にとどまった。来年度職員の方に参加してもらえるとよいかもしれない
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	サービスの取り組みは運営推進会議の報告にて行っている。また、コロナ、事故発生時には速やかに連絡、所定様式にて報告書を提出している	市町村との連携状況について		報告から、市町村と連携が撮れていることがわかった
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内に「身体拘束廃止委員会」があり、具体的な行為は正しく理解できている、又、定期的に研修を実施し、身体拘束のない事業所づくりに努めている		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者の意欲を尊重しながら安全確保というのは教育と同じで、A評価はありえないのかもしれない ・緊急やむを得ない場合以外の身体拘束を、出来る限りないようにするには、職員の理解が不可欠である。委員会の開催や研修に努めて頂きたい

6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	研修会で虐待について学び、虐待防止に取り組んでいる。又、他事業所の発生事例を共有し、同じ事が発生しないよう相互注意が出来る職場作りに努めている		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・相互注意ができる職場であればこそである ・施設内での出来事は表面化しづらいため、適切なケアの実施について各職員の学びの機会の確保と実践が非常に重要
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	権利擁護に関する制度について、全ての職員が周知しているとは言い難い現状である			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所契約時には、重要事項説明書、契約内容について詳細に説明をして不安や疑問点の聞き取りを行っている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	面会時に家族に意見を聴取、または運営推進会議の聞き取りのみである。今年度は家族様にアンケートの実施予定である		A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	・アンケート実施後は意見を反映させることができれば A になる。家族が意見を出しやすい物にしてほしい ・家族が一番気にしている事と違います。アンケート調査から始めて更にという事か ・家族と日頃コミュニケーションを図ることは、サービスの質を高めることや苦情につながらないというリスク管理にもなる
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	代表者は定期的に事業所を訪問し、職員の意見を聞く機会を設けている。又、毎月開催する全体会議において職員から提案をもらい、運営に反映している			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の日々の勤労状況については業績評価シートを元に面談をして、適正に処遇に反映されるようにしている。又、目標管理シートにて個々に目標を設定し、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている		A. <u>十分にできている</u> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・劣悪な就業環境が報道される今日、A 評価は素晴らしい ・利用者への適切なケアが提供されるには、職員のモチベーションや職場環境が整っていることも要因の一つである。人事制度が整備され、目標設定等についても実施出来ており良い

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人では、階層別に研修を年間通じて行っている。又、部門・部署においては、年間の研修計画に沿って実施している。外部研修への参加も奨励している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・外部研修への参加は、職員の刺激になり意欲向上につながると思う。人員等の関係で研修への参加が難しいことも推測されるが職員のスキルアップによる利用者への適切なケアの提供が実施されることが望ましい
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で「サービス事業所ネットワーク会議」の開催がされておらず交流の機会が制限されている			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の出来る事の把握に努め、日常生活において役割をもってもらい、一緒に行う事で暮らしを共にするもの同士の関係を築いている			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍でも馴染みの人との関係が途切れないように、感染状況に応じて面会をいただいている。場所の対応については模索している	他施設の地域などとの関わり方の状況について (地域の意見) ・他施設の地域活動の状況について、なにか情報はありますか？ →スーパーがすぐ近くにある施設は、買い物ツアーなど実施したという話を聞いているがどの施設でも地域活動が再開できるとは限らないと思っている		他施設では、すぐ近くにあるスーパーに買い物ツアーをしていたりする。感染対策のこともあり、馴染みの場所に出かけることもままならない状況は理解できる
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常生活から、利用者の声を聞き、どのような生活を望まれているのかを伺い、アセスメントを行いケアプラン作成しケアを行っている			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の意向はもちろん、家族の要望等についてもヒアリングしケアプランに反映しているが、関係者へのヒアリングが不十分である	介護計画作成のプロセスについて説明	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・関係者のヒアリングが不十分という事ですので、これは努力でAになるかと思う ・介護職だけでなく、リハ職や医療職と共に検討し作成する介護計画は、利用者の利益につながる

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎日のケース記録の記入について、ケアプランに沿った内容で記入する意識が未だ低い。情報共有については、申し送りノートを活用しながら実行できている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・プランに沿った内容で記入というのも克服できること。Aになる事を期待 ・1人1人のケアプランに即したケアの実践が望ましいが、全職員にケアプランの内容を周知させ情報共有を図ることがその前に課題となる
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々のケアの中で、本人や、家族の要望に耳を傾け、聞き取る姿勢は持っているが、既存の施設サービスの枠組みの範囲内であり、柔軟な支援が出来ていない	現状報告		特にご意見なし
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	One ぱくキッチンの活動拠点として、地域住民に参加頂いているが、利用者の参画ができていない。他の社会資源の活用も少ない	感染対策の状況説明		感染対策上、地域に出たり外部の方と関わることを制限せざるを得ない状況であることは理解した
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時にかかりつけ医を確認し、本人が施設生活で不安なく過ごしていただけるよう、連携している。必要に応じて家族に健康状態等を説明し、適切な医療に繋げている			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院後、病院からの状況報告や退院相談について、管理者を中心とし情報交換しているが、病院関係者との連携には課題がある		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・大事なことであるため、限りなくAになる事を期待する ・利用者の入退院前後の生活がなるべく変化が生じないように入院機関との連携を適切に図る必要があると考える。病院関係者との連携における課題は何か？
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化した場合について、施設で出来る事を家族へ説明し、方針を検討している。主治医、訪問看護師、法人内他施設と連携し、その方の状態に応じた対応をしている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・B 評価とはどういうことなのか。 ・本人、家族と予め聞けるときに意向を確認し、適宜意向の変化がないか確認することが必要だと思う。適切な場所で適切なケアを受けられるような支援が必要だと思う。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変時や事故対応についてマニュアルは整備しているが、応急処置や初期対応の訓練について、定期的な実施ができていない			

25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	防火訓練など定期的実施し、職員の実践力や意識を高めている。地域との協力体制、連携に不十分な部分がある	法人のバックアップ体制があるということで、災害が起きた際どのような対応をするのかを地域と情報共有しながら行えるとよい	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・災害時の施設の動きを職員が把握していること、地域の方の動きを把握していることはとても大切である。地域の方とも災害時に動きについて話をしておくことが望ましい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の声に耳を傾け、これまでの生活歴を把握し、尊厳・自尊心に配慮したケアの実践が出来るよう、定期的な勉強会を開催している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・地域との協力は、地域の力量に関係することかと思えます。コロナで自治会連合会も弱体化しているように思う ・尊厳・自尊心に配慮したケアが行えることが高齢者虐待の防止にもつながる。認知症の理解と共に大切にしたい部分である
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の暮らしのペースを優先したケアの提供に努めているが、時に職員都合となっている場面もあり、継続的にケア方針の共有が必要			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の盛り付け、片付け等、利用者と職員と一緒に実施している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・食事を楽しむことのできる支援が A というのは素晴らしいこと ・利用者の残存能力を活かし出来ることをやっていただきながら、尚且つ楽しみながら食事が出来ることは認知症予防につながる。今後も実践いただきたい
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事、水分摂取量を把握し、不足分については、声掛け等行い対応している。医療機関の管理栄養士から、栄養ケアに関する指導を受けながら支援している			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食後の口腔ケアは必ず実施している。自身で歯磨きをされる利用者に関しては、口腔内の状態把握が不十分な可能性はある		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・利用者との関係であるので「身体拘束をしないケアの実践」と同様の問題を含んでいるように思う ・口腔ケアの重要性が近年高まっていますが、個別の口腔ケアの実践は介護予防の視点においても重要であると考え
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望、排泄動作に関係する身体機能の確認等、多職種を交え職員間で検討し、排泄の自立支援を行っている。便秘時の対応については、主治医と連携している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・排泄や入浴に関しては、利用者の自尊心に影響する行為である。その部分について出来る限り自立支援の視点で支援できることで利用者の QOL が高まる

32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴を好まれない方についても、表情や気分をみて、適切なタイミングで入浴を促すようにしている。また、体調に応じて湯船につかるか、シャワー浴にするか、本人へ伺いながら対応している			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夜間不眠であった方には、日中に休息時間を確保している。体調に応じて、時間を決めて休息時間を設けるなどの支援を行っている			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	内服薬による副作用、体調や生活リズムの変化に対して、スタッフ間で情報共有している。服薬方法を統一し、シートを作成して、誤薬等の事故を予防している		A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・AではなくBというのは？利用者との関係を含むという事か。 ・誤投薬については事故が多い部分と伺っている。全ての事故を防ぐのは難しいかもしれないが、事故の防止に取り組まれていることで重大な事故は防げると思うので継続して頂きたい
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設内の家事(洗濯たたみ、洗濯干し、食事の準備、後片付け)等をケアプラン等に盛り込み、役割活動や、楽しみのお機会を提供している	施設での取り組みについて		女性は特に家事をすることが得意な方が多く、できることをやっていただいているのは良いことである
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. <u>あまりできていない</u> D. ほとんどできていない	気候の良い日は、施設周辺の散歩を日常的に行っている。感染予防のため、外出機会は減少しているが、利用者が望まれる外出支援を再開していく	施設での外出状況について		感染対策上、外出が困難な状況であることは理解できたが、家族との外出は、早くできるようになるとよいと思う
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. <u>ほとんどできていない</u>	現在は、施設内でお金を使用する機会がほぼ無く、現金所持の意向確認も十分できていない。今後、意向のある利用者への対応策を検討する必要がある			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. <u>ほぼできている</u> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者から要望があった時は、家族等へ電話できるように支援している。職員から家族へは定期的に、本人の様子と写真を、お便りとして発送している			

39	居心地のよい 共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活動線上には事故に繋がるような家具の配置になっていないか注意を払っている。ダイルームには季節に応じた飾りや作品、お花などを飾り季節感を取り入れる工夫をしている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・共有スペースについては、利用者個人の能力の問題、人間関係の問題など様々なことを考慮してどのようなスペースにするのか検討が必要かと思う。個人スペースとはまた違った視点での空間づくりとなると思うが、集団生活が円滑に進んでいくためにも、共有スペースの居心地の良さは大切なポイントかと思う
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	普段の会話やアセスメントを通じて、本人の暮らし方の意向をケアプランに反映させ、支援している			
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	アセスメントシートの情報や、本人、家族から伺った内容をもとに、本人が今まで生活していた暮らしが継続できるよう支援している			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の日々の状況について職員が把握した情報を、医師、看護師、セラピスト等の多職種で共有し、適切なケアを提供している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護職だけでなく、医師をはじめとする多職種において、利用者の生活をアセスメントしケアを提供していくことが適切であると思う
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	可能な限り、入居前に行っていた家事や趣味が継続できるよう、ケアプランに反映している。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の思い出を想起させ、居心地が良くなるような物を、居室に置いて頂く事に努めている。お持ち頂く物が、転倒等に繋がる物でないかも注意している		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	環境の変化に伴い認知症状の悪化が進んでしまう恐れがあるので、回想法のような形で、利用者自身のものを何か一つでも持てればよいと思う

45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	感染対策のため、戸外に出かける機会自体は減少しているが、利用者の意向に沿って少しずつ再開していく	施設での外出状況について(地域の意見) ・利用者が望まれる外出とはどんな場所か? →外食がしたいといわれる利用者は多い ・家族が利用者と一緒に外出したいという要望も強い		利用者が望む外出のひとつに「外食」があるが、感染対策上難しい状況であることは理解できた
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人に聞き取りをし、主治医やリハビリ職員と情報共有して、本人の能力を把握した上で、本人に合った生活目標や役割活動、楽しみごとを行っている			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の笑顔や、充実感を引き出す声掛けやケアの実施、行事や手作りおやつイベント等、いきいきと過ごせる環境づくりを、利用者に意見や感想を聞き取りながら行っている		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	普段の利用者の生活を一番近くで一番良く見てくださっていると思う。その中から、病状の進行具合や性格、趣味嗜好に合わせてその方にあった支援をして頂くことで笑顔を少しでも引き出せればよいと思う
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設周辺の散歩や、外出機会等、地域住民の方との交流機会は限定されている。「One ぱくキッチン」等の機会を活用した交流や、地域のイベントへの参加を再開していく			特にご意見なし
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活の中で、利用者同士や、職員と会話をする中で、安心できる人と場所であることを理解され、生活されている。地域の方との交流機会をもっと増やしたい	施設の中で楽しめることについてのご提案(地域の意見) ・施設内に花壇を作ったりするのも、楽しみのひとつになるのではないかと ・施設職員の努力や思いはよく伝わった。地域の一員として支援できることがあればしていきたい	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域の方との交流は感染症のリスクもありあまり積極的には出来ていないのだと推察される。交流を通し、地域の方に開かれたグループホームなることが利用者の生活の質を高めることにつながると思う。

(参考様式4)

事業所名 岩砂ローズガーデン

作成日: 令和 6年 3月 26日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	<運営推進会議を活かした取り組み> 今年度の自治会の防災訓練は、自治会長、防災クラブと非常時の初動確認のみ(地域住民の参加はなし)で実施ではあったが、施設職員のみでも参加できると良かった。	地域の防災訓練に参加できる。	運営推進会議を通して、情報収集し施設職員と利用者さんも参加できるような体制をとる。	12ヶ月
2	45	<生活の継続性> 利用者さんの要望はあったがコロナ感染防止のため、外出制限を継続せざるを得なかったのもあるが、積極的な行動がとれなかった。	利用者さんの要望を伺いながら、日常的に外出機会がもてるようになる。	年間計画を立て、利用者さんの要望を取り入れながら外出できるような企画をしていく。	12ヶ月
3	48	<本人が持つ能力の活用> 外部の方との交流機会の制限もあり地域行事への参加も実現できなかった。	地域と連携を取りながら、交流機会を増やす。	地域包括・社協・小学校・地域のグループホームとも連携を図り、地域のお助け隊等にも協力いただきながら交流機会を増やしていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。